

高橋剛商会ニュース



(株)高橋剛商会
〒170-0002
東京都豊島区巢鴨
2-16-4-203
TEL 03・3576・5811
FAX 03・3576・5815
フリーダイヤル
0120・76・5812

お客様・販売者・メーカーの **絆** となる情報交換誌です。

「あれから5年も命をいただいております」 あのお手紙を覚えていらっしゃるでしょうか？

昨年11月の本誌で紹介させていただいた、H・Sさんのお便りです。甲状腺ガンがあちこちに転移し、余命1年の宣告をうけた状態から生還され、5年後の今もお元気にご活躍されていらっしゃいます。

このお手紙の反響はとても大きく、「もっと詳しいお話が知りたい」と、多数の方からご連絡をいただきました。無理は承知でH・Sさんにインタビューを申し込んだところ、本当に快くお引き受けくださり、直にお会いし、お話をうかがってまいりました。



首の左側に
子どものコブシくらい
腫れモノができた！

8年ほど前のことでした。

窓ガラスを磨いていると、ガラスに映った自分の左の首のあたりが少し腫れているようなのです。

気になって、近所のかかりつけの外科医院で診てもらったと、

「心配ありませんよ。これは甲状腺線維線腫といって良性の腫瘍です。

念のため、MRIの検査をしておいたらいかがですか」との診断でした。

その後別の病院でもMRIを受診し、「良性」と診断され、特に切除の必要はないとのことでした。
ところが腫れはいっこう

に引く気配なく、逆に少しずつ大きくなっていき、子どものコブシくらいサイズのようになってしまいました。

セカンドオピニオンを受け、あちこちの病院で診てもらっても、「良性」という判断はあいかわらず。

しまいは、
「良性でもなんでもかまわないから、切除したい」と医師に申し出たところ、

T 大学病院を紹介されて診察をうけたのが、5年前のことです。

こんなになるまで
なんでほっといたの！

T 大学病院の先生は触診するなり、すぐに「進行性の末期ガン」と告げました。

末期ガンから生還されたH・Sさん。

インタビューの間中、笑顔が絶えなかったHさんの好きな音楽は「ロック」!

上の写真を撮影なさったのはご主人です。



私は最初からかわれているのかと思いましたが、先生は深刻な顔で、

「事実を告げて、本人の同意をいただけないと、治療に入れません。

ですから今申したことは本当なのです。困ったことになりましたね」とおっしゃいました。

その後、生体検査を含め精密検査を行っても、末期ガンという判断はくつがえりませんでした。

ステージ4の末期です。しかも、リンパ・肺にも複数転移していることがわかりました。

すぐに「甲状腺のガンだけを取り除こう」ということになり、3D撮影(患部を立体的に撮影する)を受けたところ、甲状腺のガンはすでに動

脈に癒着するまで大きくな
つており、手術の内容はガン
ばかりか、動脈を一部切除し
て人工動脈をつけるという
20時間以上の大手術にな
ることがわかりました。

このような手術はあまり
実施例がなく、動脈を止めて
いる時間しだいでは、脳に障
害がでる可能性が高いこと
もわかりました。

手術の前夜、 医師が自宅を訪れ 「手術中止」を告げる

「それ以外に助かる道がない
なら、お願いします」

と申し上げて、手術を翌日
に控えた夜のこと、急にT大
学病院の先生のお一人が我
が家を訪問され、
「極めて危険なので手術は中
止させていただきます。」
と告げられました。

理由をうかがうと、その先
生は手術検討のカンファレ
ンスに出張のため参加でき
ず、病院に戻ったあと手術内
容を知り、絶対反対を主張し
たということ。

また、手術の内容自体が危
険なだけでなく、成功しても

身体へのダメージがあまり
に大きく、手術がきっかけと
なるガンの転移が、高い確率
で想定されることを教えて
いただきました。

さらに、脳の血管に 動脈瘤が見つかり、 手術の道は閉ざされた

とりあえずT大学病院で
の手術は取りやめになりま
したが、かと言って別の効果
的な治療法が見つかったわ
けではありません。

先生方はいろいろな治療
法を検討してくれました。で
も、これと言った決め手がな
いまま、ガン治療専門のG病
院なら、私のようなケースの
手術例があるということ、
そちらに問合わせていただ
きました。

G病院で手術を受ける場
合は、身体に他の問題がない
かを調べなければなりません。

そこで、T大学病院で再度
精密検査を受けたところ、今
度は脳に大きな動脈瘤が見
つかったのです。

いつ破裂してもおかしく
ない大物でした。当然ながら

甲状腺ガンの摘出手術は中
止となったのです。

余命1年 何してもかまいません 自由に生きてください

その後、T大学病院に2カ
月ほど入院し、万策つきた形
で退院することになります。

退院時の診立ては、1年以
内に患部は声帯と気道まで
拡大し、声が出なくなり、自
力での呼吸もできなくなつ
て人工呼吸器を着けること
になる。

それから先は死を待つば
かり、ということでした。

退院時に渡された「退院後
の注意」には、

『何をしてもかまいません。
自由に生きてください。』

と書かれていました。事実
上の治療断念でした。

「バランスα」の 思いがけない出会い

「バランスα」を紹介してい
ただいたのは、漫才師の青空
うれし師匠でした。



◎死期を告げられたとき・・・

H・Sさんが医師から「自由に生きなさい」と言われて、取り組んだのは手作り絵本。お子様がまだ小さかった頃、「世界でたったひとつの絵本を読み聞かせたい」と思い、お友だちのお母さま方とサークルを作り、見よう見まねではじめた絵本の創作でした。プロ顔負けの素敵なキャラクターが登場する構成は、子どもに帰ったH・Sさんのわくわくする息づかいが聞こえてきそうです。

青空師匠は夫の大学の先輩で、私がガンであることを風の便りで知り、ちょうど私が大病院を退院するころに、「親切にも「バランスマ」をお贈りくださいました。

ご自分のご親族がこの「バランスマ」で死の淵から生還されたということと、とても熱心に勧めてくださったのです。

こうなったら 自分の身体を とことん信じよう！

じつはT大学病院からは、「おかしな民間療法にだまされないように」と指示されていました。

「がんが治る魔法の水」なんていうのが一番危ない！」と釘をさされてしまったので、最初はいくら青空師匠のお勧めでも、ちょっと手を出しにくく、しばらくは「飾って」ありました。

でも、考えてみたら、お医者さんからはもう見放された身です。

「何をしてもかまわない、自由に生きてかまわない、」
だったら、自力でガンに打

勝つ療法にトライしてみてもいいじゃないか。そう開き直って、飲みはじめました。

ジンマシンと発熱が 好転反応か…

やるなら徹底的にやろうと、がぶがぶ飲みました。

1日、朝、昼、晩の毎食後とその食間にも3回の計6回。1回に多い時には50mIづつ飲みました。飲み始めて1週間ほどすると、全身にジンマシンが出てきました。

さらに発熱(37度5分)もあり、これはまずいことになった、と思いました。

夫も、「やめたほうがいいのじゃないか」と心配してくれましたが、ここでやめたら元も子もない。

パンフレットにこういう症状は「好転反応(*詳しくは次のページに記載)」の可能性が高い、と書いてあったから、これから良くなると信頼しよう、と飲み続けました。

ジンマシンや発熱は1週間ほど続きましたが、しだい

に収まって行きました。

そして飲み続けて1カ月。ふと鏡を見ると、首の腫れが小さくなっているような気がしたので。(次号につづく)

本当にすみません！

H・Sさんの闘病は波乱万丈に満ちており、1回ではまとめきれず、残り
は次号への掲載とさせていただきます。
来月号(3月末日)で必ずお届けいたします。

インタビューを終えて…

H・Sさんと待ち合わせしたのは東京・武蔵野の私鉄沿線の駅前喫茶店でした。

約束の時間の15分も前にドアを開けて入ってこられた、ふんわりして華のある女性、「この方がHさんだったらいいな」と思っていると、その方のほうから、「ヒラキさんですか？」と声をかけていただきました。

それから2時間、時を忘れてHさんのお話に聞き入っていました。

北海道小樽市で生まれてからの半生、ご主人さまとの出会い、ご長女・ご長男のお話、そしてご病気の発見から闘病の過程をつぶさに伺いました。

お話を聴くほど、絶望的な困難さの中からの生還であることがわかりました。

でも、じつにあっけらかんとしてお話しされるので、こちら無理に固くならず、お話に引き込まれていました。

「Hさんって本当にすごい」と思ったのは、医療関係者をはじめ、誰に対してもグチや非難の言葉がなかったこと。

Hさんが「末期」を宣告されるにいたったのはT大学病院にかかる前の医師たちが「良性」と誤診を続けた医療が原因とも言えなくありません。

さらに、最先端医療といわれる機関でさえ、万策尽きたと治療を投げ出す一方で「民間療法にだまされるな」と言うのは「命の可能性」をかえりみようとしない「西洋医学こそ絶対」という不誠実な姿勢と考えるのです。

それでも、Hさんは他者のせいにしません。それどころか「医者が治せないのなら自分で治すしかない」と前を向いて歩き出したのです。



◎キルト製のおもちゃ

かつて学んだ服飾デザインのセンスと、のちに絵本作りで知った子ども心の自由本邦さとがひとつのハーモニーを奏でる、楽しそうな手芸品。手にとって遊びたくなりますね。



「好転反応」の見極めについて

今回、闘病生活をお話ししてくださったH・Sさんのケースでは、飲みはじめて1週間目くらいから“湿しん”と“発熱”があり、それが1週間～10日間ほど続きました。

そしてほぼ1カ月後からガンが収縮しはじめます。この時点で初めて、“湿しん”と“発熱”が「好転反応」だったことが事後的にわかりました。

“湿しん”や“発熱”があった段階で、それが「好転反応」なのか、他の理由によるものなのかは分かりにくいのは、多くのご利用者様において、「バランスα」だけではなく、病院で処方されるお薬や市販薬、他の健康食品などの複数を同時並行的に服用されており、どれが原因なのか特定するのがむずかしいからです。

「好転反応」かどうかの判断は、その反応が収まっていくかどうかです。

「好転反応」は飲みはじめて3日～10日くらいで出はじめ、永くても3週間ほどで収まるのが通常です。

それでも症状が収まらない場合は、一度飲用を止め、症状が収まったら再開してみてください。「好転反応」であれば、再開しても症状は強く出ないはずですよ。

もし、再度症状が強く出るようなら、その場合は原因が「バランスα」以外にある可能性が高いので、お医者様に相談してみてくださいね。

【好転反応の代表例】

湿しん／頭痛／便秘／下痢／発熱／だるさ(疲労感)／
発汗／血圧上昇 等



無料サンプルはこの『バランスα』500ml
商品そのものをお送りします。

◎『バランスα』 無料サンプルをお試ください。

[お電話で申し込む] 0120-76-5812 無料フリーダイヤル

担当者が
郵便番号・ご住所・お名前・お電話番号を
お伺いします

完了です。
すぐにお届けします。

[FAXで申し込む] 0120-76-5812 無料フリーダイヤル

同封のファックス専用申込用紙に
お名前とお送り先の住所を書いて
ご送信ください

完了です。
すぐにお届けします。

[インターネットで申し込む] 株式会社 高橋剛商会 **検索**

高橋剛商会のホームページから
『バランスα』無料サンプル申込み欄に
必要事項をご記入し、ご送信ください

完了です。
すぐにお届けします。

『バランスα』がよくわかる
小冊子も進呈しております。



『バランスα 読本・基礎編』
A5サイズ・64ページ
フルカラー

どんなことでもお気軽にご相談ください！